

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
 公益社団法人千葉県園芸協会
 連絡先 043(223)3005
 発行日 毎月1日
 令和3年11月号



コロナ禍の新たな販売促進の取組について

全農千葉県本部 園芸部 園芸販売課
 東京園芸販売センター長 木原 浩隆

コロナ禍でスーパー・量販店の店頭での販売促進(試食販売)が制限される中、新たな取組として百貨店内レストランや企業社員食堂での千葉県産青果物食材メニューフェアを実施し、消費者に食べて頂くことで千葉県産青果物のおいしさを知って頂くPR活動を行います。また企業と連携した量販店での取組を行うことで、フェア店舗の拡大と新たな販促活動展開を実施します。

新型コロナウイルスの感染拡大により、スーパー・量販店での販売促進(試食販売)は引き続き制限されています。このような中、千葉県、(公社)千葉県園芸協会、全農千葉県本部は、販売促進ワーキンググループの中で協議をし、販売プロモーションを検討してきました。

(株)NECライベックス社員食堂にて6月と9月に2回千葉県産青果物を食材にしたイベントを開催しました。6月3日同社の社員食堂(高津・中河原・府中)では千葉県産のトマト・白瓜・なす・ピーマン(緑・赤)・スイカを使った特別メニュー「野菜王国!千葉セット」として、「麻婆なす、彩り千葉野菜の黒酢酢鶏、白瓜とトマトのスープ」やデザートのスイカを販売し、計366食が完売となりました。また6月4日には玉川食堂でデザートのスイカ224個が完売となり、各食堂とも社員の皆さまから大好評でした。9月9日には同社の社員食堂(我孫子・玉川・高津・府中)では、千葉県産の新米粒すけ・大和芋・ながいきねぎ・トマト・サラダ菜・あきづき梨を使った特別メニュー「愛情いちばん!千葉セット」として、「ごはん(新米粒すけ使用)」、「牛皿/牛とろろ温玉丼(大和芋・ながいきねぎ使用)」、「トマトのチョレギサラダ(トマト・サラダ菜使用)」、「デザート(あきづき梨使用)」を販売しました。各食堂ではチーバくんや粒すけ・梨のPOPが華やかにイベントを盛り上げ、特に粒すけの米袋が可愛く、良いディスプレイになり、「愛情いちばん!千葉セット」はどの食堂でも大人気でした。新米・粒すけは香り・つやが違うとの感想が多く、また、あきづき梨は食感がさっぱりしており、甘みも十分あるとの評価を頂きました。



新宿高島屋では6月にタイアップして「今が食べごろ千葉県産のスイカ」フェアを開催しました。同店内のカフェレストラン2店舗で千葉県産スイカをデザートとして無償提供し、旬を迎えた県産スイカのおいしさを味わえるよう

メニューに添えました。買い物のひと休みに訪れたお客さまには、みずみずしいスイカが大好評でした。期間中は同店地下1階の野菜・果実販売店舗サン・フレッシュで「千葉県産スイカ」を同時に販売しました。食べていただくことで千葉県産青果物のおいしさを知っていただき一層の知名度向上・消費拡大につながるPR活動に取り組みました。

今後はコロナ禍での新たな販促方法展開とフェア店舗拡大を目的として、食品企業会社である味の素(株)と連携したフェアを実施します。この取組は千葉県産青果物と味の素(株)商品を量販店にて同時販売フェアを開催し、コロナ禍で再注目されている「おうちごはん」に着目し企画を展開します。11月の販売促進月間を中心に千葉県内の量販店約180店舗で「千葉県フェア」を計画し、販促資材を活用した売り場づくりを行いながら、千葉県産秋冬青果物のPRと需要拡大を図ります。





農業用ドローンを活用した農業生産の取組について

全国農業協同組合連合会 千葉県本部
営農支援部 営農企画課 高橋 佑助

農業生産を維持拡大する手段として「スマート農業」がありますが、その中でも「ドローンの活用」に注目が高まっています。水稻を中心に農薬散布等でドローンの普及が進んでいます。今後、野菜でも活用が広がることが予想されています。

1 はじめに

農業生産を維持、拡大する手段の1つに「スマート農業」の活用があります。「スマート農業」とは、ロボット技術やICTを利用し、省力化や精密化を図った農業生産を実施することです。労働力不足、異常気象（夏場の高温など）における労力負担増などの条件下の中、農業現場で効率的、省力的に生産を行うには、「スマート農業」をうまく活用することが重要です。

「スマート農業」の中でも、ドローンの活用に注目が集まっています。昨今、空撮などドローンの普及が進み、農業場面においても農薬散布などでの活用が水稻を中心に普及しつつあります。今後、ドローンを活用した農業生産が更に進むと予想されます。

2 ドローンでできること

農業生産におけるドローン技術の発展が進んでおり、ドローンの活用場面が増えています。以下、代表的な活用方法を紹介します。



農薬散布するドローン

(1) 農薬散布

農業用に開発、普及されているドローンにより、農薬の空中散布を実施することができます。これまで農薬散布は、背負い動噴やブームスプレーヤなど、肉体的負担や時間的労力が必要でしたが、ドローンの導入により、これらの軽減が期待できます。

また、水稻では無人航空機による高濃度散布農薬の登録が拡大し、ドローンによる農薬空中散布の普及が進んでいますが、園芸品目では登録農薬が少ないのが課題です。現在、園芸品目でも農薬登録が進められつつあります。

(2) 施肥

ドローンに搭載される液剤散布用のタンクを付け替えることで、空中からの施肥を実施することができます。現在、水稻において普及が進みつつある技術です。

(3) リモートセンシングの活用

ドローンに特殊なカメラを搭載し、空中よりほ場を撮影することで、農作物の生育状況を診断することができます。診断結果を用いることで、適切な防除や可変施肥を行い、生育の均質化を図ることができます。

これら技術は現在、水稻を中心に活用が拡がりつつありますが、露地野菜においても開発、普及が行われています。

3 全農千葉県本部の取組

(1) 実証試験、実演デモ飛行

JAや各メーカーと連携し、農業現場におけるドローン活用の現地実証試験や実演デモを実施しています。

(2) 園芸品目における農薬登録拡大試験

全農全国本部、各メーカーと連携し、とうもろこしなど園芸品目での農薬登録試験を実施しています。

(3) ドローン空中散布スキーム構築

業務委託先企業と共同で、ドローン請負散布の事業化に向けた取組を進めています。

(4) 情報提供

研修会などで、ドローンに関する最新情報（安全飛行のガイドライン等）の提供を実施しています。

4 さいごに

全農千葉県本部では、「スマート農業」を適切に活用し、効率的な営農と農家手取り最大化に取り組んでいきます。



ハウレンソウ冬どりトンネル栽培の優良品種

千葉県農林総合研究センター 野菜研究室
主任上席研究員 町田 剛史

第 67 回千葉県野菜品種審査会（ハウレンソウの部）が農林総合研究センターで開催され、「雷電 13」、「バートン」、「THS208」、「MSS-1211」、「SC6-059」等の 7 品種が入賞しました。これらの優良品種が産地に導入されることが期待されます。

1 はじめに

千葉県におけるハウレンソウは、平成 30 年産で 90 億円と全国第 1 位の産出額を誇る品目であり、東葛飾地域など都市近郊を始めとして冬どり栽培を中心に広く栽培されています。主要作型の一つである 11 月播種のトンネルによる冬どり栽培における優良品種の選定を目的として、第 67 回千葉県野菜品種審査会（ハウレンソウの部）が開催されました。ここでは、その結果について紹介します。

2 栽培の概要

審査会には種苗会社から 26 品種が出品されました。栽培は令和 2 年 11 月 12 日にベッド幅 120 cm、条間 18 cm、株間 4 cm、6 条でシーダーテープによる 1 粒播種としました。無マルチとし 11 月 16 日から 2 月 5 日まで有孔農 P0（通気バーナル 2 孔）でトンネル被覆しました。

栽培を行った令和 2～3 年の栽培期間中の平均気温は平年より高く推移しました。特に播種直後の 11 月後半と審査日が近づいた 2 月前半の気温は平年を大きく上回り、出荷規格の草丈 32cm をやや超えるような品種が散見される状況での審査会となりました。

3 審査結果

審査会は令和 3 年 2 月 17 日に開催され、立毛及び収穫物の審査を行いました。その結果、「雷電 13」、「バートン」、「THS208」、「MSS-1211」、「SC6-059」、「TSP-570」、「天下無双」の 7 品種が入賞しました。入賞品種はいずれも立毛、収穫物ともに 100 点満点中 80 点以上の高得点であり、トンネル冬どり栽培への適性が

高いと考えられました。特に得点が極めて僅差であった上位 4 品種は、いずれも葉色が濃く、草型が立性で収穫や調製作業がしやすい品種であることも高く評価されました。

なお、品種審査会開催時に試交番号であった「THS208」は「フォルテシモ V」、「MSS-1211」は「グリーンアップ」、「SC6-059」は「ピンドン」、「TSP-570」は「寒兵衛」の名称で、その他の品種はそのままの名称でいずれも販売されています（令和 3 年 10 月現在）。

4 おわりに

ハウスに比べて保温性の劣るトンネルによる冬どり栽培の品種には、低温伸長性が優れることに加え、収穫・調製作業が容易な草姿であること、発芽が良いこと、収量が多いこと等が求められます。選定した優良品種が産地に導入され、生産の安定と拡大につながることを期待しています。



写真 1位の「雷電 13」の収穫物

表 入賞品種の審査得点、審査時の草丈及び葉色

順位	品種名		会社名	得点 (各100点、合計200点)			草丈 (cm)	葉色 (SPAD)
	出品時	令和 3 年10月		立毛	収穫物	合計		
1	雷電13	同左	ナント種苗	83.70	81.95	165.65	33.5	63.9
2	バートン	同左	住化農業資材	83.80	81.85	165.65	31.4	63.6
3	THS208	フォルテシモV	トーホク	83.25	82.35	165.60	34.0	63.9
4	MSS-1211	グリーンアップ	武蔵野種苗園	83.15	82.35	165.50	31.1	70.3
5	SC6-059	ピンドン	サカタのタネ	81.40	82.80	164.20	35.1	56.5
6	TSP-570	寒兵衛	タキイ種苗	82.00	81.70	163.70	36.8	63.2
7	天下無双	同左	小林種苗	82.20	81.30	163.50	32.2	67.4

注 1) 審査日及び調査日：令和 3 年 2 月 17 日

2) 「雷電 13」、「バートン」は同じ合計点であったが、審査員の協議により収穫物の得点が高い「雷電 13」を 1 位とした

果樹ニュース



パッションフルーツ「サマークween」の耐寒性

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所
特産果樹研究室 研究員 小野瀬 優哉

「サマークween」は、越冬期間中に主幹の表面温度が -2.5°C 以下になると主幹が褐変する程度の強い寒害が発生し、収量が大幅に減少すると推察されました。過去の南房総地域の気象データから判断すると、十分な収量を得るためには加温施設内で越冬させることが必要となります。

1 はじめに

観光農業が盛んな南房総地域において、パッションフルーツは集客力向上に役立つ品目として導入が進んでいます。千葉県の栽培面積は1.5ha、収穫量は13.0t（平成29年産特産果樹生産動態等調査）で、収穫量は全国で第4位の産地となっています。

パッションフルーツは露地や無加温施設での越冬は難しく、1年生苗木を育成し毎年植え替える栽培が行われていますが、耐寒性の詳細については明らかになっていません。そこで、主力品種「サマークween」を用いて、寒害が発生する温度について検討したので報告します。

2 「サマークween」の耐寒性

平成29年度及び30年度の冬季に鉢植え樹を気温 -1°C ～ -5°C に4.5時間遭遇させる低温処理を行い、各樹の寒害の程度を「無」（葉及び主幹ともに健全）、「弱」（葉は全て褐変又は落葉したが、主幹は健全）、「中」（主幹の一部が褐変）、「強」（主幹は著しく褐変又は枯死）に分けました。「中」以下の寒害程度の樹を5月に露地ほ場に定植して栽培した結果、寒害程度「弱」であれば収量の低下はみられませんでした。一方、寒害程度「中」の株は低温処理しない株と比べて、7～8月の収量は少なく、10月の収量は多くなったものの、総収量では3割ほど少なくなりました（図1）。これらから、「サマークween」では主幹が

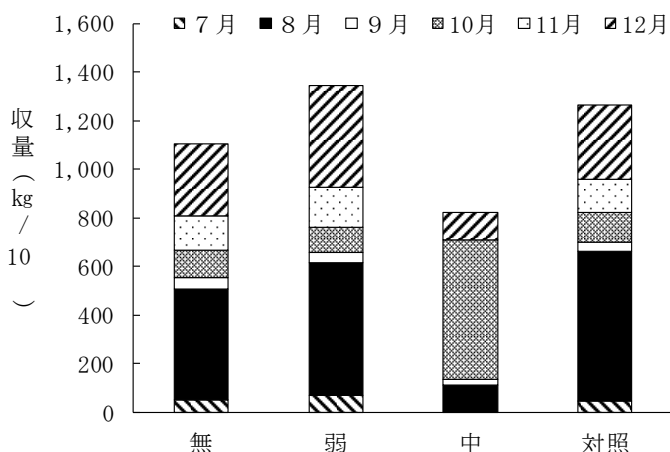


図1 「サマークween」の収穫時期別収量

褐変する「中」程度の寒害を受けると、定植後の収量が大幅に低下することが分かりました。

また、総収量の低下がみられる主幹の一部が褐変する寒害の発生率は、統計解析の結果から主幹表面最低温度が、おおむね -2.5°C 以下になると急激に高くなると推定されました（図2）。

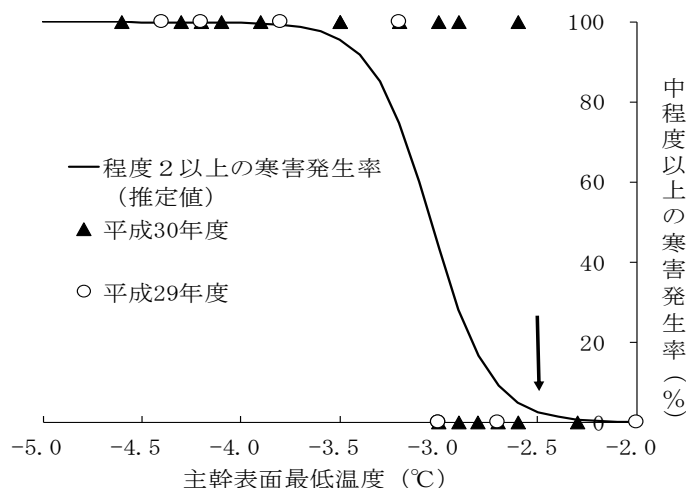


図2 人工気象器での低温処理時の主幹表面最低温度と「中」程度以上の寒害を受ける確率の関係（平成29年度、平成30年度）

3 露地ほ場の日最低気温と

主幹表面最低温度との関係

最低気温が氷点下の日における露地ほ場の気温と、主幹表面温度を測定したところ、主幹表面温度が -2.5°C となった場合の露地ほ場の気温は -0.2°C ～ -2.1°C であり、気温より主幹表面温度の方が低いことが明らかとなりました。これは冬の晴天で風がない夜によくみられる放射冷却によるものと考えられます。

4 おわりに

館山の年最低気温（アメダス）は、過去50年間に於いて最も高い年でも -2.4°C であり、現状では露地ほ場での越冬は難しいと言えるでしょう。

一方、施設栽培においては、氷点下にならない程度の加温を行えば、燃料費が抑えられ比較的lowコストで越冬させることができると考えられます。



令和3年文化の日千葉県功労者表彰 表彰者の御紹介



千葉県農林水産部生産振興課

文化の日千葉県功労者表彰は、各方面で顕著な功績を挙げ、本県の発展に多大な貢献をされた方々を毎年11月3日（文化の日）に知事が表彰する制度です。今年度の表彰において園芸関係の2者（団体）が表彰されることとなりました。おめでとうございます。

山武市成東観光苺組合

（代表：中村隆幸組合長・山武市）

（1）略歴

昭和53年に「日本一おいしいいちごを直接消費者に」をスローガンに成木苺組合を結成。市場出荷から直売主体の販売に移行し、新鮮ないちごをその場で味わえるいちご狩りを導入、昭和58年に成東町観光苺組合、平成18年に山武市成東観光苺組合となり、現在に至ります。

組合員19名、栽培面積8.1haと、県内の観光いちご産地で最大規模を誇ります。

（2）功績の概要

平成23年に発生した東日本大震災により地域の観光産業が大きな被害を受けた中、いちごを使ったスイーツの祭典「いちごの里さんむS-1グランプリ」の開催や、農商工連携による新商品の開発・販売など、いちごのPRと観光客の積極的な誘致を行い、早期復興と地域の活性化に大きく貢献しました。

また、新型コロナウイルス感染予防対策として、千葉県いちご組合連合会と連携し検討会や現地試験等に積極的に取り組むとともに、同連合会で定めた対策を組合員全員がいち早く導入し、本県いちご狩りでの感染予防対策推進のけん引役となりました。

さらに、新規就農希望者の研修を組合として積極的に受け入れており、本県農業の担い手の育成にも大きく貢献しています。



技術研鑽に取り組む組合員

吉田 良和 氏

（前 千葉県花き園芸組合連合会副会長・いすみ市）

（1）略歴

昭和51年に就農して以来、エラチオールベゴニア等の鉢花類の生産に取り組んでいます。

鉢花生産者のリーダーとして、岬町花卉生産組合、岬町農振会、千葉県鉢花生産者連絡協議会、千葉県花き園芸組合連合会など、関係団体の要職を15年以上にわたり務められました。

（2）功績の概要

地元及び県域花き生産団体の要職を長年にわたり歴任し、円滑な組織運営に尽力するとともに、鉢花の安定生産や品質向上、販売対策などに積極的に取り組みました。

特に、千葉県花き園芸組合連合会役員（会計、副会長）在任中は、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機とする夏場の県産花きの需要拡大を目指し、平成28年度から幕張新都心地区において毎年開催している「花壇づくりコンテスト」では、生産者のまとめ役として花壇苗の品質向上と安定生産に向けた技術研鑽に努めるとともに、コンテスト参加団体への花壇づくり指導など、運営全般にわたり尽力されました。さらに、「花育」の推進として小学校等での花壇づくり体験などにも取り組み、本県花き産業の発展に大きく貢献しました。



花苗の管理をする吉田氏

房総みかん美味コンテスト 開催のお知らせ

千葉県農林水産部生産振興課

県内で生産される温州みかん等の品質向上と消費拡大を目的とした房総みかん美味コンテストを開催します。

房総の太陽をいっぱい浴びて育った、甘い温州みかんと香り爽やかなレモンやゆずがおよそ100点出品される予定です。2日目には出品物の即売も行います。たくさんの御来場をお待ちしています。

1 期日

令和3年11月20日(土)から21日(日)

20日 午前 専門家による審査(見学不可)
午後 出品物の展示

21日 午前10時 出品物の展示及び即売

2 会場

イオンスタイル木更津店(木更津市築地1-4)

3 問合せ先

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

TEL: 043-223-2872



審査会の様子



展示及び即売会

千葉県立農業大学校 令和4年度一般入学生の募集について

千葉県立農業大学校

農業経営者、指導者を目指す皆さんのチャレンジをお待ちしています!

▼募集人員 農学科80名、研究科20名(推薦入学含む)

▼受験資格

農学科 高等学校を卒業又は、
令和4年3月卒業見込みの者

研究科 農業大学校の卒業生又は、短期大学の農業に関する正規の課程を修めて卒業した者
(令和4年3月卒業見込みの者を含む)

	A日程	B日程
▼出願期間	令和3年 12月3日(金)～ 12月16日(木)	令和4年 1月24日(月)～ 2月4日(金)
▼試験日	令和4年 1月7日(金)	令和4年 2月15日(火)
▼合格発表	1月25日(火)	3月1日(火)

▼試験場所 千葉県立農業大学校 山武校
〒289-1211 山武市大木13
TEL: 0475-78-4800

▼試験科目 筆記試験及び面接試験

農学科 必須科目:国語総合(古文及び漢文を除く)
選択科目:農業と環境、生物基礎、化学基礎の
3科目のうちから1科目を選択する。

研究科 作物学、園芸学、畜産学及び農業経営学の
4科目のうちから2科目を選択する。

▼問合せ先・資料請求先

千葉県立農業大学校 東金校 試験事務局

TEL: 0475-52-5121

FAX: 0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>



twitter



facebook

※本校での学修の様子や学生生活に関する情報を発信しています。